

## 3年目を迎えた きんたろう倶楽部と 協働によるキャンパス整備

富山国際大学環境サークル  
代表 里崎 英亮

10月4日の土曜日、富山国際大学の環境サークルのメンバーを中心に今年で3回目となる大学キャンパスの森林整備を行いました。昨年は、キャンパス内に自生する竹林や広葉樹林を整備して見本林となる庭造りをしましたが、今回の作業は、第2駐車場に群生する雑木林の整備を計画しました。夏休み中に、きんたろう倶楽部の事務局の方と作業内容や、準備する道具、手順など、事前の打ち合わせをしました。

当日はますますの晴天にめぐまれ、大学の教職員、学生が20数名ときんたろう倶楽部の会員、地元の住民の方々などたくさんの方が集まってく



ださり、下草刈り、込み合った雑木の伐採など多様な作業を実施しました。また、プロの方に伐採した木をチップにかけて始末してもらいました。あつという間の2時間程度ですつきりして、作業前とはまったく様変わりです。駐車場の隣に立っているマンションが作業前はまったく見えなかったのですが、作業が終わった頃はすつきりして、まごく見晴らしがよくなりました。

また、作業をしていると不法投棄されたたくさんのゴミも出てきました。参加している学生の中にはマンションに住んでいるものもいたので、マナーを考えるいい機会にもなったと思います。作業後は仲間の女子学生たちが作ってくれた味噌汁を食べながら、参加した人たちとおしゃべりしたり、ほどよい疲れを感じながら無事終わりました。

この3年間、環境サークルときんたろう倶楽部の協働によって、大学のキャンパスを中心として整備活動を進めてきました。これからは、め

ぐまれた自然環境の中にある大学として、この周辺にも活動の輪を広げていきたいと思います。そのためには、学生自身の活動のあり方をもう少し模索する必要があるかもしれません。いずれにしても活動に参加して下さった皆さんに感謝します。

## 天湖森ボランティア 活動を終えて

橋原中学校二年  
水上 久和

ぼくは、このボランティア活動に「駅伝などでお世話になっている天湖森に感謝の気持ちを込めて」という思いでとりかかりました。

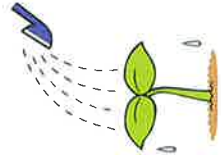
まず、ぼくたちの班は、道となる場所のシヤマナ木を整理しました。重い木、形の変な木など、いろいろありましたが、一生懸命はこびました。そしたら、その場所はとでもき



れいになってびつくりしました。うれしかったです。

次にぼくたちは、道と階段づくりをしました。ぼくは、やれませんでした。くいを木づちで打っている班員の人たちはとつてもかっこよかったです。ぼくは、他の人と、道の整備をしていました。そこにあつたら危なそうな木を切ったり、落ち葉を整理したりしました。そうやってみんなで協力してつくった階段や道は、とでもすばらしいものになり、感動しました。

この活動を終えたみんなの顔は、やり遂げたという感動に満ちていました。とてもいい活動だったので、またやりたいと思います。協力してくださったきんたろう倶楽部のみなさんにも感謝したいと思います。



## 活動カレンダー

- 4・19 国有防風保安林整備(竹除伐と粉砕処理)福代(大沢野)
- 4・20 とやまの森づくりボランティア交流会(高岡市伏木宮)
- 4・26 第6回兵羽丘陵竹林整備(公園緑地課)
- 5・18 竹林整備(竹伐採及び粉砕処理と竹細工教室)兵羽丘陵(西金屋)
- 6・1 里山林整備(竹除伐と森林療法体験)婦中町大瀬谷
- 6・8 里山林整備(下刈りと刈払機操作講習会)山田ふれあい森林公園
- 6・15 公園周辺環境整備(下刈り)小羽清水記念公園(大沢野)
- 6・15 飛越源流の森づくり(1)(源流散策)飛騨市古川町註畑
- 6・28 緑地整備(下刈りと刈払機操作講習会)八尾中核工業団地緑地
- 6・28 育苗管理(草刈り、草取り)吉作
- 7・5 竹林整備(除伐と安全講習会)
- 7・9 チェック(1)操作)婦中ふるさと自然公園
- 7・13 植樹地下刈り(保育作業)天道水源涵養保安林(八尾町室牧)
- 7・23 竹堆肥1回目切返し(ファミリパーク第3駐車場)
- 8・6 竹堆肥2回目切返し(ファミリパーク第3駐車場)
- 8・29 竹堆肥3回目切返し(ファミリパーク第3駐車場)
- 8・15 3130 悠久の森(流しソーマンとラフト教室)ファミリパーク
- 9・15 3130 きんたろう倶楽部シンポジウム(ファミリパーク富山)
- 9・21 とやまの森づくりボランティアの集い(黒部市阿古屋野地区)
- 9・26 竹堆肥4回目切返し(ファミリパーク第3駐車場)
- 10・4 里山林整備(除伐と下刈り)富山国際大学(福沢泉里牧)
- 10・10 里山林整備(除伐と下刈り)





わけですが、本当は整備しないという手もあると思います。ただ現状は東側の斜面は孟宗竹かびどくて、きんたろう倶楽部の皆さんに頑張っていたいて、ずいぶん明るくなりました。グミの群生地など、そういうものも回復していくような手入れは必要だと思います。

一方では車で近くまで行きたい人も、私も確かにいるわけで、どこにどの程度の手を入れていくか議論する必要があります。市の計画としてではデジタルセンターを作り、呉羽丘陵へ歩いて入ってもらう取っ掛けを造ろうとしております。

また、ファミリーパークの機能や側面の力、水準を上げていきたいと思っています。きんたろう倶楽部の皆さんに果たしていただいている役

割は大変大きく、ありがたいと思っております。

司会者

里山は字の場でもありようです。次世代の育成という意味ではいかがでしょうか。

## 子供の感覚に戻れ

西頭氏

きんたろう倶楽部は非常に多様な活動をしています。子供たちや人間発達科学部の学生たちも参加しています。里山の活性化において、倶楽部の果たしている役割を高く評価したいと思っております。

す。ただやはりボランティアであるというところで、継続性については工夫する必要があります。自分の先ほどの養老先生の話は、自分の身体、出力を訓練して子供の感覚に

戻れというふうには理解しているわけですが、大学生も含めて自然に学ばなから体験してほしいと思っております。

司会者

人づくりと言っても、率先して楽しんでいただくのが一番いいと思うのですが、長嶋さん、人を動かすのは難しいことですよ。

長嶋氏  
まさに子供たちと一緒にのことをやらせて、自分が感動することを指導

者にもやっていただいております。その中で10人いれば1人か2人残ればいいかなと思っております。だいたいボランティアは3年ぐらいで誰もいなくなりますが、それを継続する時間があるか。例えば、一緒に行者になんか権を授けて、「来年、また植えて来てくだはれ」と言うので、つられて5、6人来るのです。こういうことで何となく人をつないでおるわけです。

今、子供たちと間伐をやっており、子供たちやつた時の感動、子供たちは一生忘れないと思っております。同時に大人を子供に戻して楽しませることもよって、後継者とは言わないまでも、仲間ができるのではないかと考えております。

## 人間が楽をするうまくいかない

養老氏

20世紀は、現在の社会が当たり前のようになっていきました。21世紀は、たぶん10年以内に石油のピークアウトが来るだろうと言われているからこそ、身に付いていきます。

日本海のイカ釣りかもうできないというところがありました。今後はそれが当たり前になると思います。安い物を大量に運ぶことも不利になってくる。そうすると地元を生かすことが、当たり前になってくると思っております。

ない。ここにおられる皆さん元気があつたとしても、その材木で火も作れなくて、子供たちをラフアップさせて

司会者

さん何をされるんですか。寝ているのでもいいですけども、それは生きていくということになります。要するに問題の完全な背景はエネルギー問題、代替エネルギーを使っても同じことだということです。炭酸ガス問題にして、環境問題にして、エネルギーを使って人間が楽をするというふうなことが、今、子供たちと分かったはずだと言

司会者  
森から待たれるものが体験であり、また最終的に、私たちは森によって生きていくという社会になっていくのかもしれないと思

長嶋氏  
私のところは全く石油から離れております。ご飯を炊きたければ山から木を取ってきて燃料にすればいい。物は何もなければいい。身に付いていきます。

くかなと思っております。大量に運ぶことも不利になってくる。そうすると地元を生かすことが、当たり前になってくると思っております。

大量に運ぶことも不利になってくる。そうすると地元を生かすことが、当たり前になってくると思っております。

せていければと思います。

司会者

里山や田舎の風景を見て、匂いを感じることとはとても重要ですよ。子どもたちに伝えていくためにも、ぜひきんたろう倶楽部に入会いただいて、体験するプログラムにぜひご参加して下さいと思います。今日はどうもありがとうございました。(このシンポジウムは、三井物産環境基金の助成を受けています。)

